

## 式辞（令和元年度 卒業証書授与式）

陽ざしも徐々に明るさを増し、春の訪れが感じられる今日このよき日に、第二十四回卒業証書授与式を挙行することができますことを心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、あらためて「ご卒業、おめでとうございます。」

先ほど、卒業生一人一人に卒業証書を授与いたしました。卒業証書の中身を見る時間はなかったことと思います。

そこで卒業生の皆さん、今から授与された卒業証書をそっと開いてみてください。この卒業証書には皆さんが本校で過ごした思い出や成長の跡が凝縮されています。

まず卒業証書の右側には、あなたの名前が書かれています。その名前には生まれてきた時に「この子にこうなってほしい」という保護者の熱い願いが込められています。次に書かれている生年月日。この日から、あなたはこの世に生を受け、今まで立派に生きてきた出発点の日です。

証書の真中には大きな文字で「中学校の全課程を修了したことを証する」と記載されています。これは単に学習だけではなく、知徳体すべてにおいて皆さんが成長したことを意味しています。

そして最後に令和2年3月13日と記載されている本日、まさに皆さんは、義務教育9年間を終了し、思い出が詰まった本校を巣立つ日です。

自宅に帰ったなら、保護者の方に卒業証書を見せて次の一言を付け加えてください。「今まで本当にありがとうございました。」照れくさくてなかなか言えない一言ですが、保護者にとって今まで育ててきた十五年間の全ての苦勞が報われる、かけがえのない一言になるのですから。

（それでは卒業証書を閉じてください）

さて、義務教育最後となる3月のこの時期、新型コロナウイルスによる休校など例年と異なる様々な制限があり、皆さんにとって受難の日々となってしまいました。思い返せば9年前、皆さんの小学校入学直前には東日本大震災という未曾有の大災害があり、卒業生の皆さんにとっては「義務教育の節目となる小学校の入学式、中学校の卒業式にどうしてこんなつらい目に遭わなければならないのだろう」と釈然としない思いであると思います。保護者の方も私たち教職員も、心が痛みます。

しかし、皆さんは今まで様々な苦難と逆境を乗り越えて今日という卒業式の日立派に成長し卒業できることに誇りに持ってください。

逆境を乗り越えてきた皆さんだからこそ、人との絆の大切や人を思いやることの素晴らしさを体験できたはず。そしてこれからの人生において今までの辛い経験や貴重な体験を生かしていける心豊かな人になってください。

立派に成長した卒業生の皆さんの門出にあたり、三つのはなむけの言葉を送りたいと思います。三つとも私が常々話してきたことです。

一つ目は、「挑戦」。何かに躊躇し後ずさりして後悔する位なら、何かに貪欲に挑戦した上ではね返された方がはるかに価値があります。

二つ目は、「失敗から学ぶ」。人は常に初めての人生を生きています。失敗するのは当然なことです。ただ、私達は同じ失敗を繰り返すのではなく「なぜ失敗したのか。どうしたら良かったのか」を振り返り、次に生かすことです。その積み重ねが人としての成長に繋がります。

最後の三つ目は「今を精一杯生きる」。

過去を反省する、未来を考えることは大切です。しかし一番大切なことは、「今を精一杯生きる」ことです。今生きている一瞬一瞬は二度と戻ってきません。どんなに苦しくてもどんなに悲しくても、今を精一杯生きることで必ずあなたに光は射してきます。

もう一度繰り返します。「挑戦」「失敗から学ぶ」そして「今を精一杯生きる」。この言葉を忘れずに、卒業後の新しい環境でぜひあなた自身の高みを目指してくれることを大いに期待しています。

さて、保護者の皆様には、これまで陰になり日向になり、深い愛情を持って育ててこられたことに深く感謝いたします。お子さんは様々な困難を乗り越えて、こんなに立派に成長しました。今後とも温かく見守っていただき、お力添えいただければと思います。

また、本校の教育活動に寄せられました、ご理解とご協力に対しても、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんが自らの未来を自らの力で切り拓き、たくましく成長していくことを祈念申し上げ、式辞といたします。

令和2年3月13日

いわき市立植田東中学校長 若松 真一